

三春町立小学校教育のあり方に関する基本方針(案)

令和6年（2024年）年5月

三 春 町

三春町教育委員会

目 次

はじめに	・・・	1
1 少子化の状況と町立小学校の現状	・・・	2
2 町立小学校の児童数推移予測	・・・	3
3 近隣自治体の動向	・・・	8
4 令和5年度の実施計画	・・・	8
5 基本方針	・・・	12
6 小学校再編に向けたスケジュール	・・・	15

はじめに

三春町（以下「町」とする。）では、約40年前、画一的な教育による様々なひずみが表面化していた時代に、児童生徒一人一人に向き合うことの重要性を再認識し、「三春の教育」の大きな柱として、①子ども一人一人の個性・特性を重視する創造的教育観、②学校施設、教育内容・方法の改革、③地域住民の教育参加を掲げ、独自の教育を展開し、現在に至っています。

一方、全国的な傾向である少子化の進行は三春町でも同様であり、平成25（2013）年4月、それまでの三春中学校、沢石中学校、要田中学校、桜中学校を統合し、新たな三春中学校を開校し、小学校についても、少子化の進行による複式学級の導入を受け、平成29（2017）年7月、三春町教育委員会（以下「教育委員会」とする。）において、「町立小学校再編等に係る対応について」を取りまとめました。

そこでは、児童数減少の中での小学校への対応として、以下の点を挙げています。

- ①小規模な小学校については、再編も選択肢のひとつとして将来に向けた話し合いを行っていくことが肝要。
- ②具体的な対応の進め方として、関係者による現状把握、検討に先立って解決すべき課題の整理、保護者や地域住民への積極的な情報提供、保護者等の意見や意向を知る機会の設置。

教育委員会では、令和2（2020）年秋、町内各地区で教育懇談会を実施し、少子化による児童数の推移予測、その中での学校教育の進め方等を説明し、町民への情報提供を行うとともに、翌3（2021）年4月、「三春町第1期教育大綱」を定め、「学び、つながり、未来を拓く、三春の教育の創造」を基本理念とし、学校教育においては「子どもの夢と教師の夢が共に育つ学校づくり」を基本目標とし、40年来の教育理念を継承し、「発達段階に応じた学びの充実を図り、児童生徒一人一人の個性や特性に応じて、可能性を最大限に伸ばす学校教育」の推進を図ることとし、授業改革の実施等の取組みを行ってきました。

しかし、少子化の進行は加速化していることから、令和5（2023）年春より、保護者をはじめとする多くの町民の意見を丁寧に聞きながら、町立小学校教育のあり方について検討をした結果、以下のとおり、町としての基本方針を定めました。

1 少子化の状況と町立小学校の現状

町における少子化の状況を具体的に示すと、表のとおりとなります。

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
出生数	103	101	106	107	81	88	95	75	76	78	72

この数字は、毎年4月1日から翌年3月31日までに出生した子どもの数であり、学齢とは若干異なることに注意が必要ですが、平成29年度に出生数が百人を下回り、以後急激に減少していることが見てとれます。

国立社会保障・人口問題研究所では、2020年国勢調査の結果をもとに、5年ごとの5歳階級別人口を推計しており、5年ごとの5歳階級別人口（0から4歳）からの出生者数の推計は以下のとおりです。

年	R 2 2 0 2 0	R 7 2 0 2 5	R 1 2 2 0 3 0	R 1 7 2 0 3 5	R 2 2 2 0 4 0
人数	105	85	72	62	55

年度と年の違いはありますが、R 2年(度)を比較すると、実際の出生数は大幅に減少していますので、この推計以上のスピードで少子化が進行している可能性があります。

このような状況は、当然のことながら、町立小学校の現状にも反映されています。

【町立小学校の現状】

令和6年4月

学校名		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援 学級数	合計
三春小	学級数	2	2	2	2	2	2	4	16
	児童数	61	52	45	54	50	49		311
	(特別支援－内数)	(6)	(4)	(2)	(7)	(1)	(1)	(21)	
岩江小	学級数	1	2	2	2	2	2	3	14
	児童数	37	59	45	54	38	45		278
	(特別支援－内数)	(4)	(4)	(3)	(6)		(2)	(19)	
御木沢小	学級数	1	1	1	1	1	1	2	8
	児童数	10	18	11	13	14	21		87
	(特別支援－内数)			(1)	(1)	(1)	(1)	(4)	
中妻小	学級数	1	1	1		1		2	6
	児童数	3	11	10	7	8	9		48
	(特別支援－内数)		(2)	(1)	(1)	(1)		(5)	
中郷小	学級数	1		1		1		0	3
	児童数	3	5	9	3	8	8		36
	(特別支援－内数)							(0)	

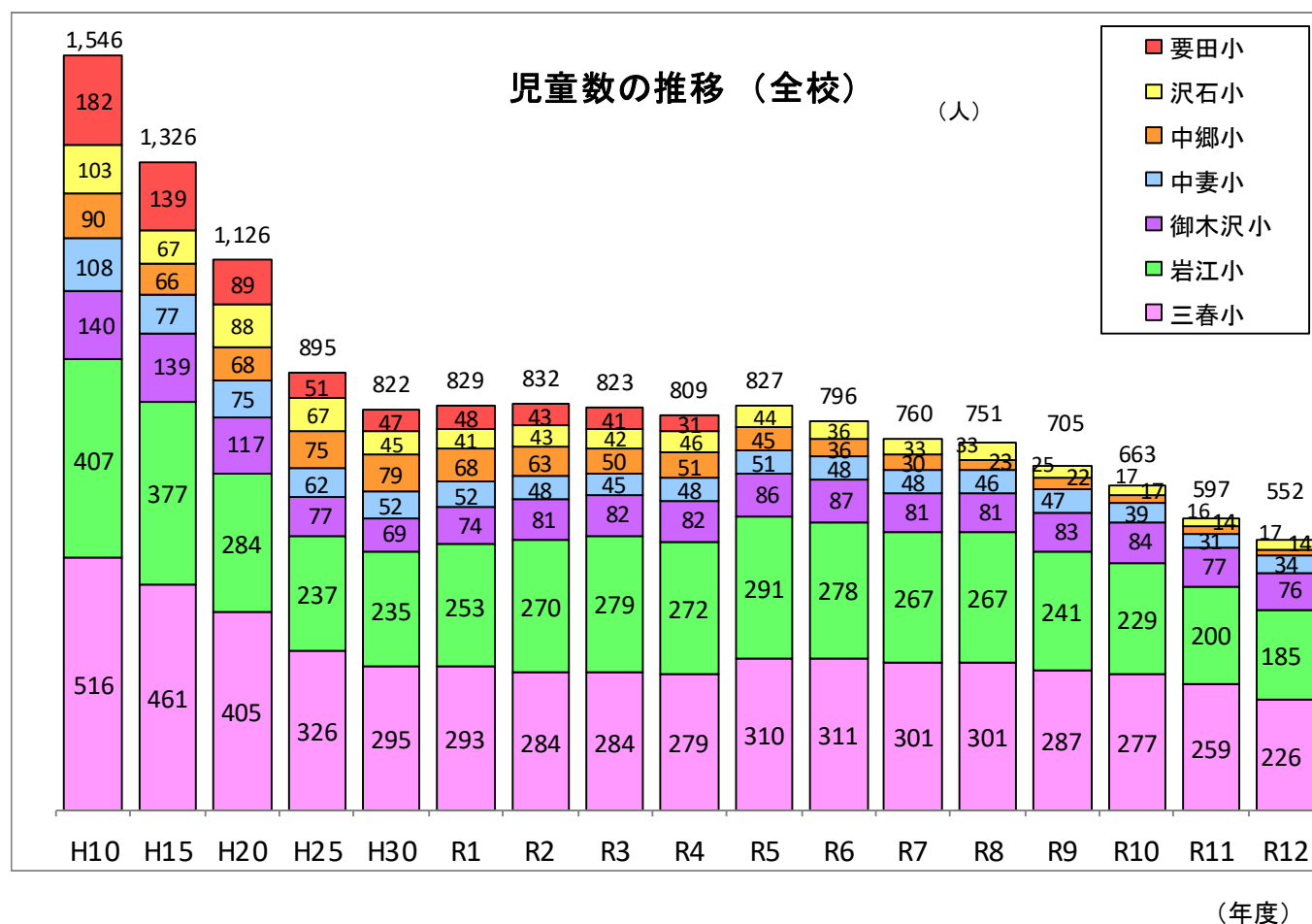
沢石小	学級数	1		1		1		2	5
	児童数	2	3	9	10	5	7		36
	(特別支援ー内数)			(2)	(3)	(1)	(1)	(7)	
合 計	学級数	7	6	8	5	8	5	13	52
	児童数	116	148	129	141	123	139		796
	(特別支援ー内数)	(10)	(10)	(9)	(18)	(4)	(5)	(56)	

現在、町内3小学校で複式学級が導入されており、沢石小学校、中郷小学校は、今年度から完全複式学級になっています。

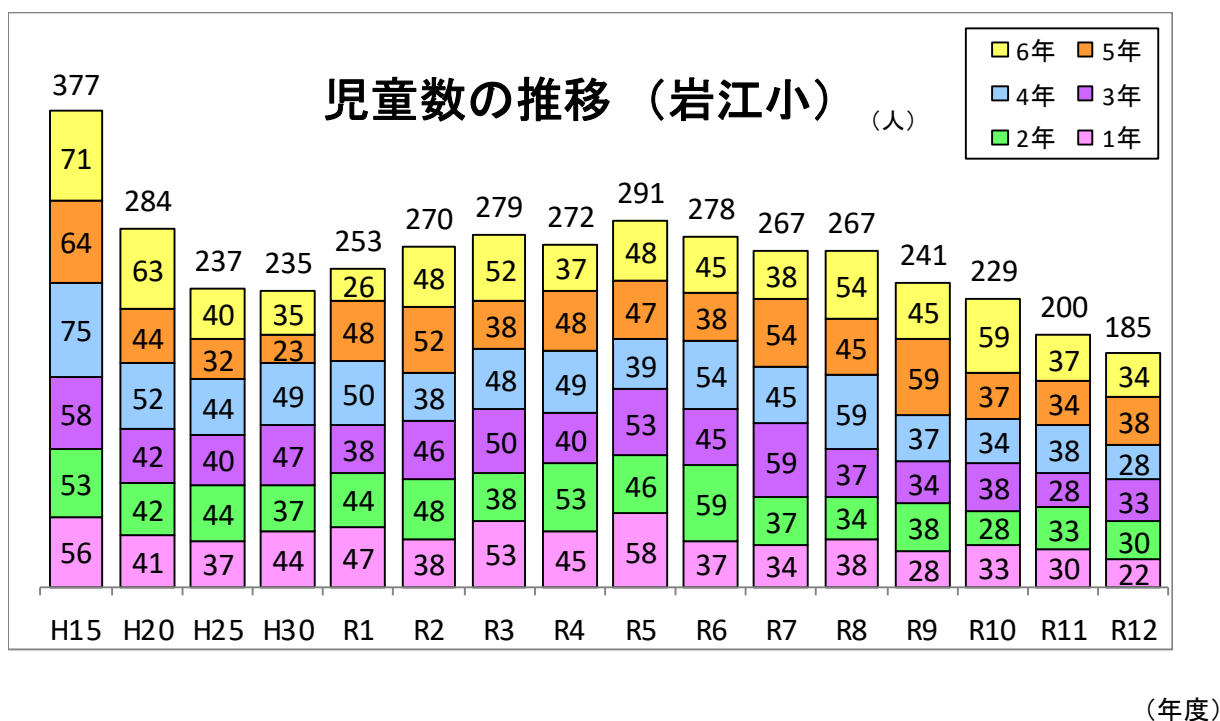
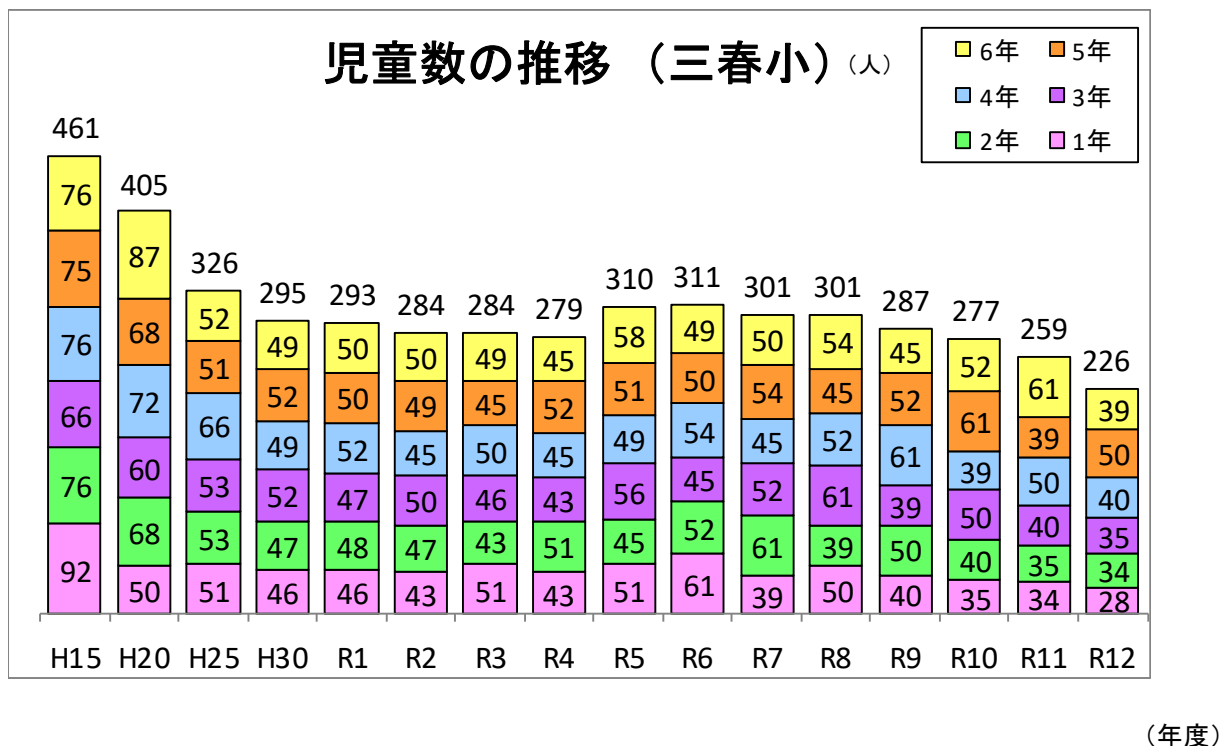
2 町立小学校の児童数推移予測

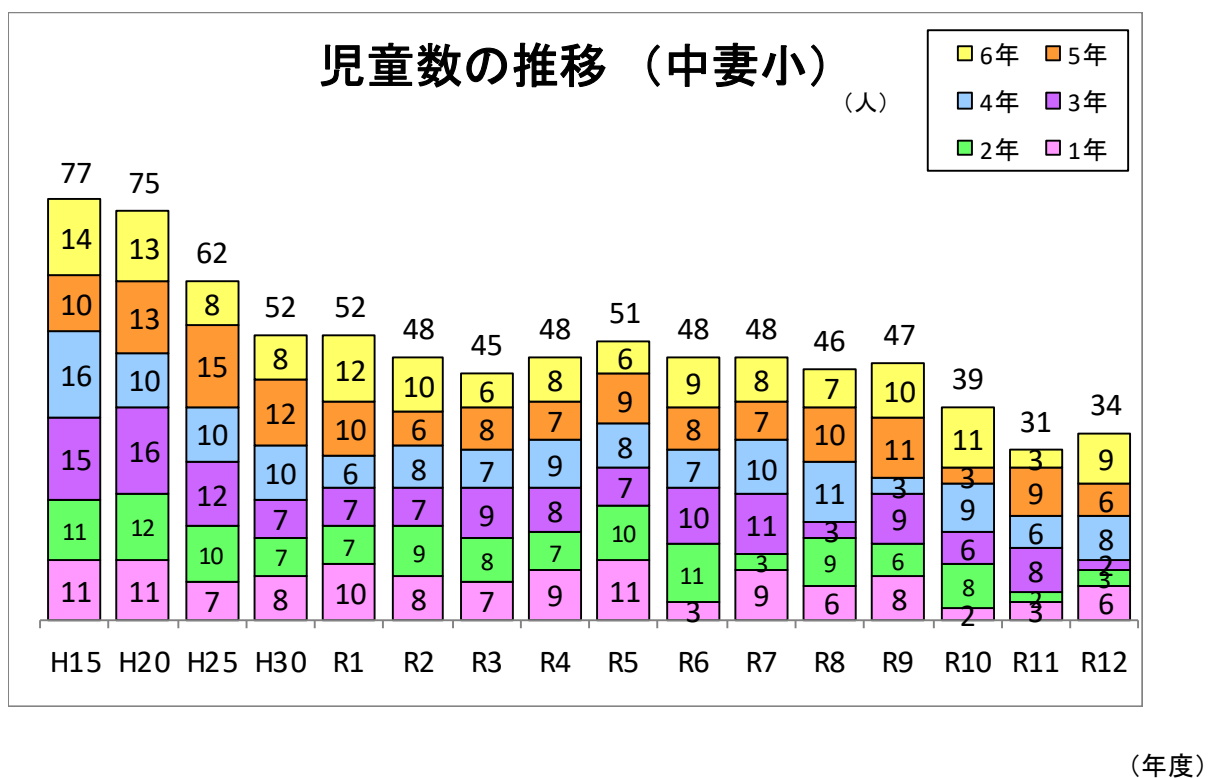
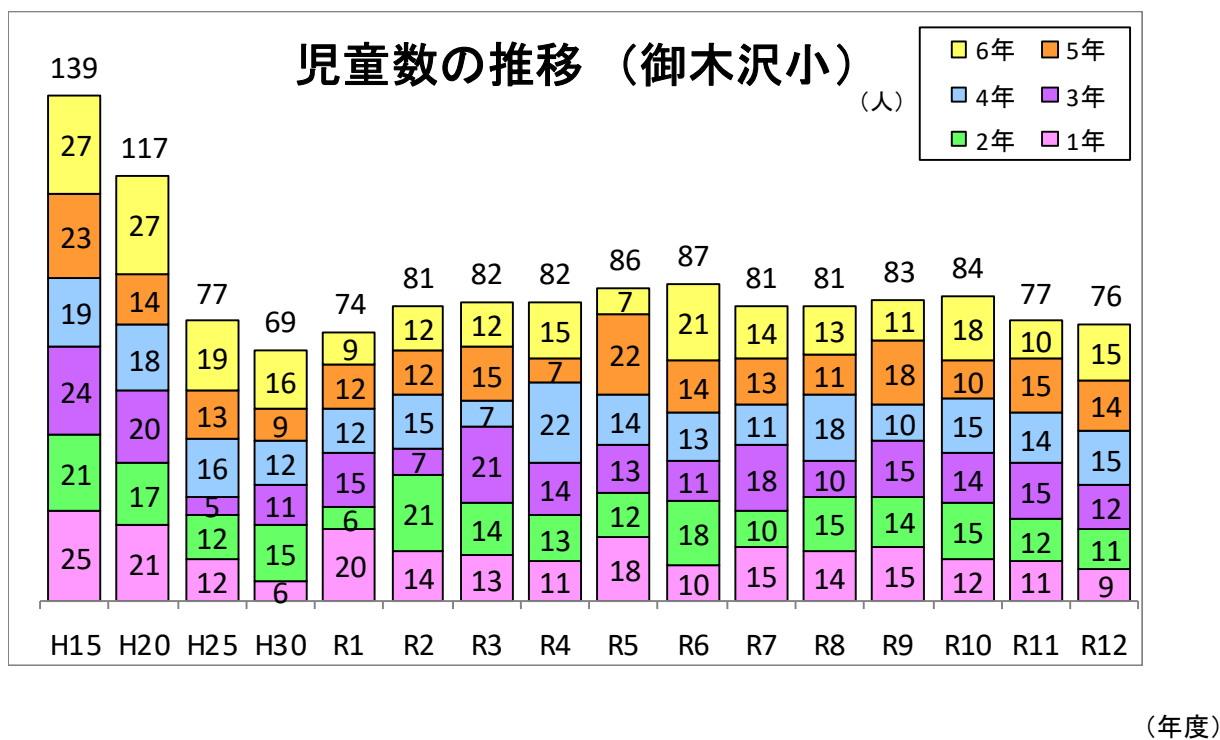
(1) 町立小学校の児童数推移予測

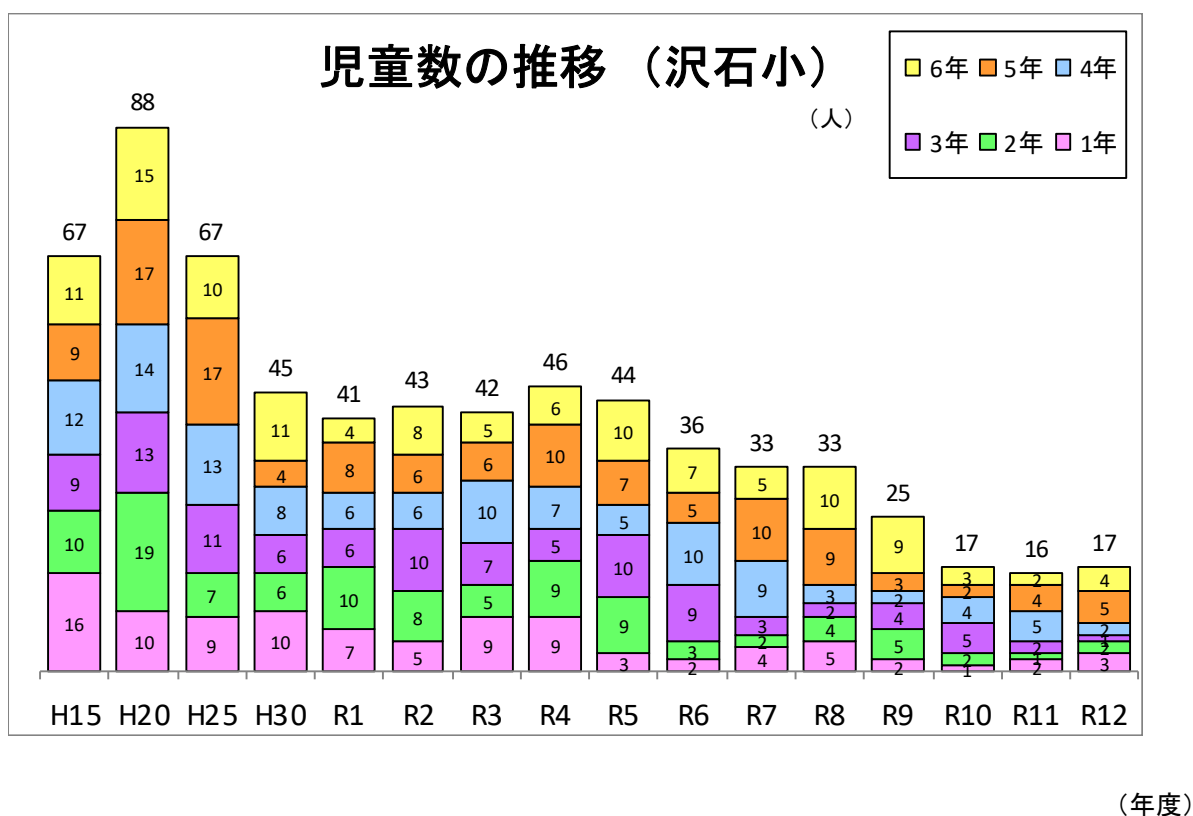
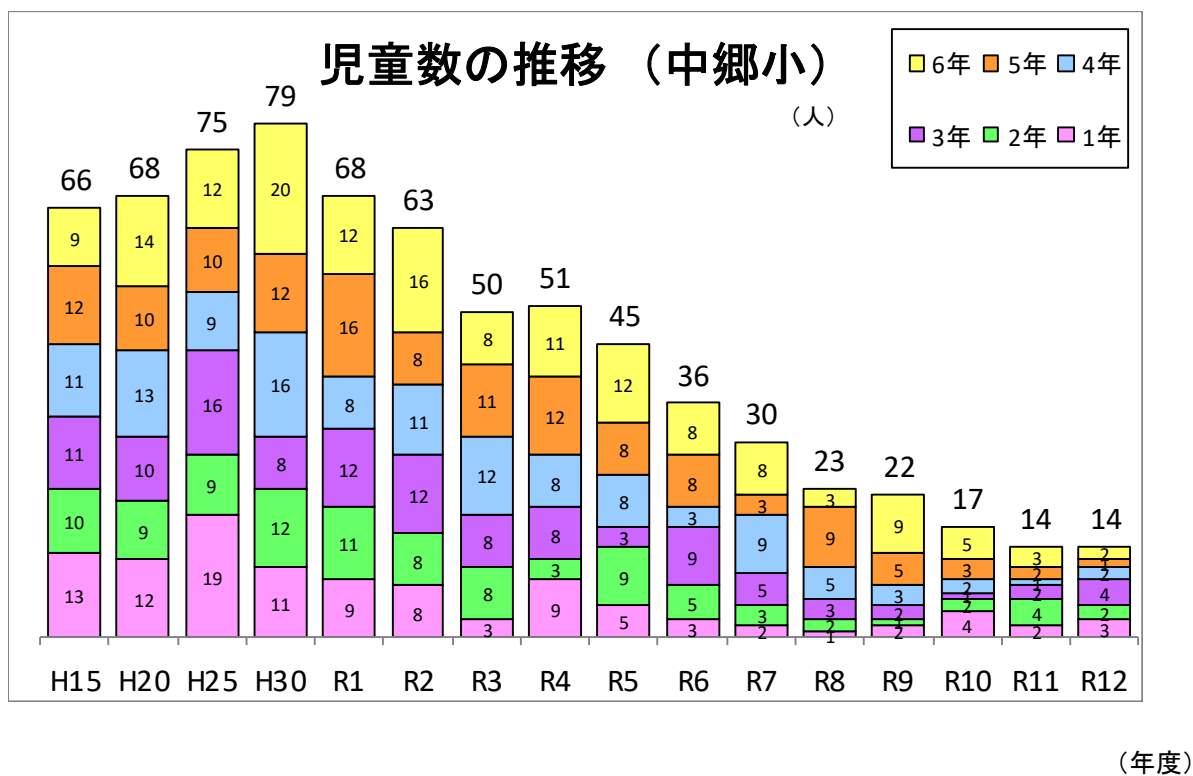
令和6年4月1日までの出生数から、令和12年度までの町立小学校の児童数・学級数が予測できます。以下に示した推移予測は、支援学級を考慮していないこと、転入転出による児童数の異動の可能性があること、区域外就学の可能性があることから、あくまで予測であり、変動する可能性があります。



【学校別】







(2) 学級数の推移予測

令和12年度までの町立小学校の児童数及び学級数の推移は以下のとおりです。

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
三春小	12 学級 (311人)	12 学級 (301人)	12 学級 (301人)	12 学級 (287人)	11 学級 (277人)	10 学級 (259人)	9 学級 (226人)
岩江小	11 学級 (278人)	11 学級 (267人)	11 学級 (267人)	10 学級 (241人)	9 学級 (229人)	8 学級 (200人)	7 学級 (185人)
御木沢小	6 学級 (87人)	6 学級 (81人)	6 学級 (81人)	6 学級 (83人)	6 学級 (84人)	6 学級 (77人)	6 学級 (76人)
中妻小	4 学級 (48人)	4 学級 (48人)	4 学級 (46人)	4 学級 (47人)	4 学級 (39人)	3 学級 (31人)	3 学級 (34人)
中郷小	3 学級 (36人)	3 学級 (30人)	3 学級 (23人)	3 学級 (22人)	3 学級 (17人)	3 学級 (14人)	3 学級 (14人)
沢石小	3 学級 (36人)	3 学級 (33人)	3 学級 (33人)	3 学級 (25人)	3 学級 (17人)	3 学級 (16人)	3 学級 (17人)

※ ピンクは「適正規模校 12～18 学級」、黄色は「小規模校 6～11 学級」、青は「過小規模校 5 学級以下」で複式学級あり

以上の予測から、以下の点が指摘できます。

三春小学校は、現段階では各学年 2 学級を維持していますが、令和 10 年度には 1 年生が 1 学級となり、令和 12 年度には 1～3 年生がいずれも 1 学級になる見通しです。

岩江小学校は、現段階では 1 年生が 1 学級となっていますが、令和 12 年度には 5 年生以外はいずれも 1 学級となる見通しです。

なお、三春・岩江小学校は、学級数の減少だけではなく、全体として大きく児童数が減少していくことにも注意が必要です。

御木沢小学校は、学級数はいずれも 1 学級で推移する見通しであり、児童数についても大きな減少が見られず、現状を維持する見通しです。

中妻小学校は、複式学級を含む 4 学級が継続し、令和 11 年度には完全複式学級となる見通しです。児童数についても令和 10 年度以降 40 人を下回る見通しです。

中郷小学校は、令和 6 年度以降、完全複式学級の 3 学級となっており、令和 7 年度以降についても完全複式学級の 3 学級が続いていく見通しです。児童数についても現状では減少し

ていく見通しです。

沢石小学校は、令和6年度以降、完全複式学級の3学級となっており、児童数についても15人前後まで減少していく見通しです。

3 近隣自治体の動向

少子化の進行は三春町だけの問題ではなく全国的なものです。この状況を受け、近隣市町村、特に田村市・小野町の状況を確認しておきます。

田村市では、平成15年段階で23校あった小学校を、段階的に再編し、令和5年4月からは7校まで減少させています。市町村合併前の旧市町村単位で見れば、旧船引町を除く、滝根町、大越町、都路村、常葉町の4町村では、各1校まで減少しています。

小野町は、平成15年段階では6校あった小学校を、段階的に再編し、令和2年4月からは1校とし、現在に至っています。

主に過小規模校を減らし、複式学級解消を目的とし、統廃合が行われてきました。学区が広がったことによる児童の登下校の問題はスクールバスの運用で解消し、長く乗車する児童でも片道30分～40分程度に時間を抑えています。学級児童数が増えたことにより、グループ活動など多様な学習形態で学ぶことが可能になり、また、学校行事での更なる活動の充実が図られているということです。

課題として挙げられることは、元々各小学校単位で行っていた地域に根ざした特色ある教育活動を、統合後、新しい学校ではどの程度残すことができているかということです。この問題は、統合により小学校がなくなってしまった地区におけるコミュニティの維持の問題にも繋がる問題です。さらにはその地域に暮らす住民の減少に繋がる問題ですので、今後、三春町で統合による再編成を進める際には対策を検討すべき問題だと言えます。

4 令和5年度の実施

町・教育委員会では、少子化が急速に進行している現状に鑑み、令和5年度、町民の皆さんと情報を共有し、共に小学校教育のあり方について考える機会を設けました。以下、その経過をまとめておきます。

「小学校教育のあり方」の説明と意見交換は、計27回開催し、延べ人数で600名を超える方の参加をいただきました。

①令和5(2023)年5月から各小中学校学校運営協議会において説明と意見交換を行いました。

学校運営協議会	開催期日	出席委員数
三春小学校	5/26	17 名
沢石小学校	5/30	16 名
御木沢小学校	5/30	9 名
中郷小学校	5/31	9 名
岩江小・中学校	6/2	17 名
中妻小学校	6/22	9 名
三春中学校	7/11	22 名

②6月から7月にかけては、各小学校の保護者を対象とした「町立小学校教育のあり方」の説明と意見交換を行いました。

学校名	開催期日	出席保護者数
三春小学校	7/7	約30名
岩江小学校	6/30	約50名
御木沢小学校	6/3	約60名
中妻小学校	6/30	約40名
中郷小学校	7/5	26名
沢石小学校	7/14	約30名

③アンケート調査の実施

8月から9月にかけて、町内全世帯の5,684世帯を対象に「三春町立小学校教育のあり方」に係るアンケート調査を実施しました。結果は図1のとおりです。

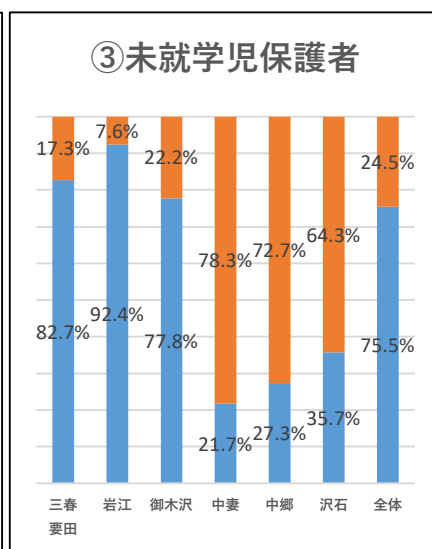
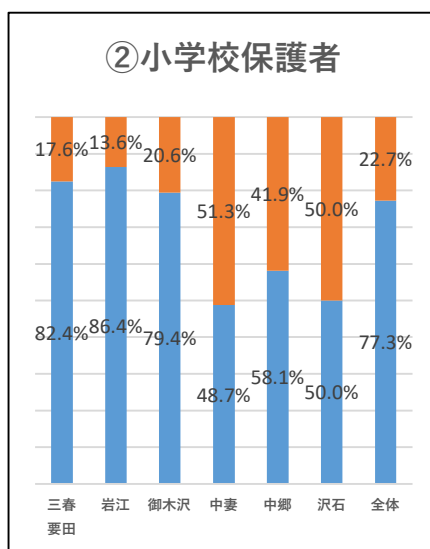
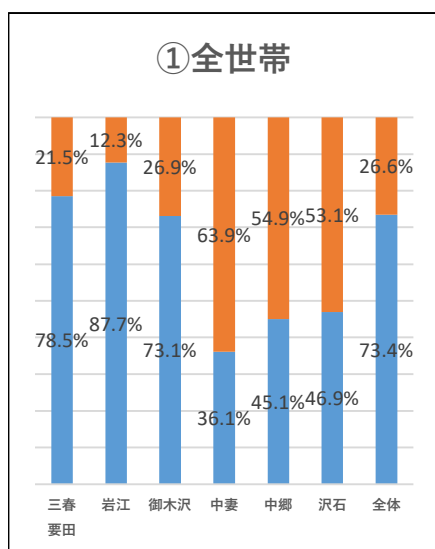
三春・岩江・御木沢・要田地区は7割を超える方が「現在の学校を維持してほしい」、中妻・中郷・沢石地区からは、5割を超える方から「学校を再編してほしい」との回答をいただきました。

④10月から12月にかけて、各地区小中学校の学校運営協議会においてアンケート結果の説明と意見交換を行いました。

学校運営協議会	開催期日	出席委員数
三春小学校	11/29	10 名
沢石小学校	11/13	13 名
御木沢小学校	11/24	10 名
中郷小学校	10/31	7 名
岩江小・中学校	12/7	16 名
中妻小学校	11/16	9 名
三春中学校	11/17	16 名

図 1

			地区名						合計
			三春 要田	岩江	御木沢	中妻	中郷	沢石	
① 全 世 帯	配布数（件）		2,486	1,605	501	334	437	321	5,684
	回答数（件）		330	277	78	61	71	49	866
	回答率		13.3%	17.3%	15.6%	18.3%	16.2%	15.3%	15.2%
	内訳 （件）	現状維持	259	243	57	22	32	23	636
		再編	71	34	21	39	39	26	230
	割合	現状維持	78.5%	87.7%	73.1%	36.1%	45.1%	46.9%	73.4%
		再編	21.5%	12.3%	26.9%	63.9%	54.9%	53.1%	26.6%
② 小 学 校 保 護 者	配布数（実世帯数）		238	220	68	42	32	29	629
	回答数（件）		182	154	34	39	31	26	466
	回答率		76.5%	70.0%	50.0%	92.9%	96.9%	89.7%	74.1%
	内訳 （件）	現状維持	150	133	27	19	18	13	360
		再編	32	21	7	20	13	13	106
	割合	現状維持	82.4%	86.4%	79.4%	48.7%	58.1%	50.0%	77.3%
		再編	17.6%	13.6%	20.6%	51.3%	41.9%	50.0%	22.7%
③ 未 就 学 児 保 護 者	配布数（件）		施設単位での配布のため地区ごとの分類不可						401
	回答数（件）								265
	回答率								66.1%
	内訳 （件）	現状維持	81	85	21	5	3	5	200
		再編	17	7	6	18	8	9	65
	割合	現状維持	82.7%	92.4%	77.8%	21.7%	27.3%	35.7%	75.5%
		再編	17.3%	7.6%	22.2%	78.3%	72.7%	64.3%	24.5%



■：再編

■：現状維持

- ⑤令和6（2024）年1月から2月にかけて、地区教育懇談会を開催し、意見を聴取しました。

地 区	開催期日	開催場所	参加者数
三春・要田	1/30	三春交流館「まほら」	36名
岩江	2/7	岩江小学校	27名
御木沢	1/20	御木沢地区公民館	24名
中妻	2/3	中妻地区公民館	31名
中郷	2/15	中郷地区交流館	32名
沢石	2/17	沢石会館	54名

- ⑥令和6（2024）年3月18日に、各地区学校運営協議会委員により、小中学校の適性配置及び再編に係る先進事例の視察研修を行いました。

- ⑦令和6（2024）年3月に町立小学校教育のあり方検討のための各地区学校運営協議会代表者会議を開催し、各地区教育懇談会の開催結果の伝達と意見交換を行いました。

令和5年度の取り組み（アンケート・説明会）の結果は以下のとおりです。

検 討 校	検 討 内 容
三春小学校	アンケート結果や地区教育懇談会等では、多くが「現在の学校を維持してほしい」との回答であり、現状維持で問題ないという結果でした。
岩江小学校	アンケート結果や地区教育懇談会等では、多くが「現在の学校を維持してほしい」との回答であり、現状維持で問題ないという結果でした。 なお、学校周辺には、令和7年度に岩江こども園が開所予定であることに留意する意見も寄せられました。
御木沢小学校	アンケート結果や地区教育懇談会等では、多くが「現在の学校を維持してほしい」との回答であり、現状維持で問題ないという結果でした。
中妻小学校	アンケート結果や地区教育懇談会等では、今後の子どもの教育、将来、社会性等を考えると、「学校の再編が必要である」という結果でした。
中郷小学校	アンケート結果や地区教育懇談会等では、現状を考慮した場合、「学校の再編はやむを得ない」という結果でした。
沢石小学校	アンケート結果や地区教育懇談会等では、現状を考慮した場合、「学校の再編はやむを得ない」という結果でした。

5 基本方針

町では、教育委員会が進めてきた三春の教育の理念を継承していくことを前提とし、下記の基本方針を定めました。

(1) 小学校再編の必要性について

小学校教育において、少人数による学校教育には個別に丁寧な指導ができるという大きなメリットがあり、これまでも町内の過小規模校では、異学年交流活動の充実、地域を巻き込んだ学校行事の運営など大きな成果を上げてきました。世界的な視野に立ってみても少人数、異学年による授業がすう勢であり、研究者によってもその教育効果は裏付けられています。

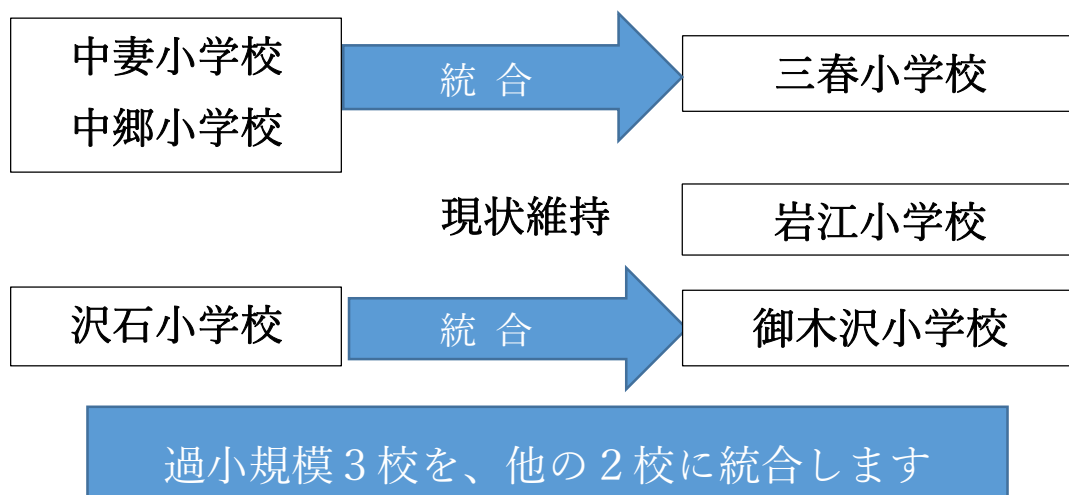
しかしながら、町内の少子化による学級人数の減少は看過できない状況にあります。今後、数年間の児童数推移予測においても新入学児童が2～3名になってしまう学校が複数存在し、引っ越しによる転出の可能性もあること、更に過小規模校での教育を望まない家庭が区域外就学を希望し、他の小学校へ転出してしまう場合のあることなどをふまえると、新入学児童がさらに減少する可能性もあります。少人数による教育のメリットはもちろん前述のとおり存在しますが、この状況まで少人数化が進めば、グループ学習集団学習など多様な学習形態がとりにくいこと、固定された関係の中でしか学べない、男女比の偏りが生じやすいなどの問題が顕著となる現状が表出しています。

以上の状況をふまえると、三春町において小学校再編は必要不可欠であり、より適性な規模での小学校教育が推進できるよう、統合により諸問題を解決していかなければならないと言えます。

(2) 小学校再編について

以下のとおり小学校を6校から3校へ再編します。

～児童の多様性・個性・特性を生かした協働的な学びの実現～

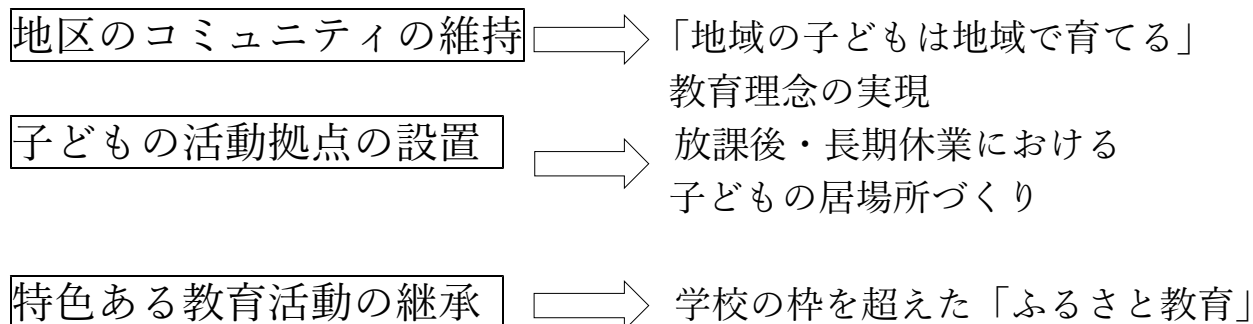


(3) 再編の時期について

小学校再編は令和8年度末までに行い、令和9年4月から町内3小学校に移行します。

(4) 三春町ならではの「地域と共にある学校再編」を目指して

◇三春町が目指す学校再編



【大切にしたい3つの視点】

児童の健全育成

子育て支援の充実

持続可能な地域振興

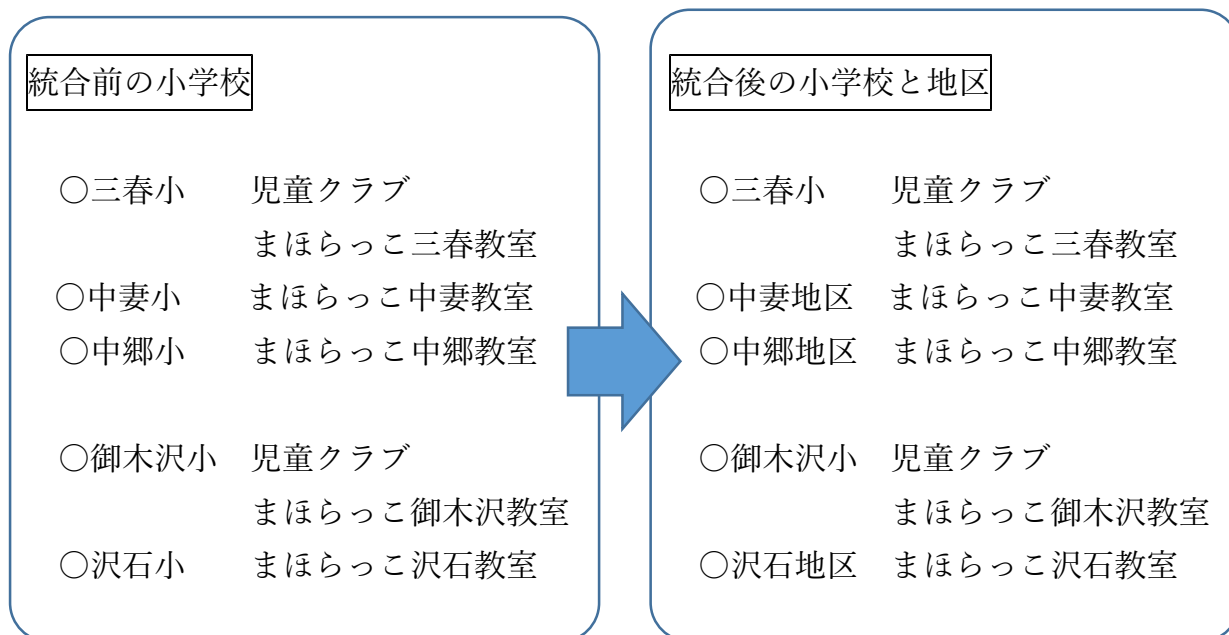
◇三春の教育の継承～大切にしたい3つの視点～

「3 近隣自治体の動向」で述べたとおり、三春町に先行して学校再編を進めていた自治体では、過小規模校を減らしたことによる複式学級の解消、学校行事の充実などの成果があったものの、地域に根ざした特色ある教育活動の減少、学校がなくなってしまった地区におけるコミュニティの維持の問題など課題も多くありました。

三春町は、約40年前より「三春の教育」を推進していく中で、全国に先駆けて地域住民の教育参加を掲げ、すべての学校をコミュニティスクールに指定し、地域との連携を深めてきました。その中で文化、歴史、自然などの豊富な教育資源に加え、地域の方々と共に学校の教育活動を作り上げていく「地域で子どもを育てる」土壌が醸成されてきました。学校再編にあたってこのような「三春の教育」の良さを失うことなく、むしろ「子どもの学びの場や機会」を増やす子育て支援を充実させ、持続可能な地域振興という発想で学校再編を進めていきたいと考えています。

(5)「地域と共にある学校再編」のための取組例について

①「児童クラブ」及び「まほらっこ教室」の運営について



統合され閉校となった小学校区においては、地域での子育て支援の促進や地域コミュニティの維持、地域の文化や伝統の継承を図るため、引き続き「まほらっこ教室」を実施することとし、平日の放課後及び長期休業中に、多様な学習・体験活動を今まで通り実施します。また、地域の方々にも引き続き活動支援員として関わっていただき、地域の子どもたちを地域で育む活動を継続していきます。

統合によって地域から離れた場所にある小学校に通学する子どもたちに、地域にも活動の拠点を残すことで地区におけるコミュニティの維持への一助としたいと考えています。また、これにより子どもたちの居場所づくりに繋がることも期待できます。

②社会に開かれた教育課程～特色ある教育活動の継承を目指して～

統合によりなくなってしまう過小規模校には、地域に特色を生かした魅力ある教育活動が存在しています。地域人材を生かした体験学習、地域の文化財に関わる活動など、様々な方々と子どもたちが交流し、「未来の創り手となるために必要な資質・能力」を高めていくことのできる教育活動です。統合後の学校では可能な限り、そのような教育活動を継承できるよう、教育課程編成での工夫を行い、各地区の「まほらっこ教室」で活動を行ったりして検討していきます。

6 小学校再編に向けたスケジュール

